

# 別の姿を持っている

境川中学校 一年一組 水野智公

一つの物を、Aと判断したりBと考えることは、経験したことがあるだろう。

左の図には、ゴツゴツとした立派な山と遺跡が見れるだろう。しかし、この絵は、もう一つの絵を隠し持っている。見ていて気づいた人もいるだろう。この絵を左へ九〇度回して見ると、少しづつ、あごのしゃくれた男の人の顔に見えてくるだろう。



このようなことは、絵に限ったことではない。雨が降った後に空を見上げて、虹を見たことがあるだろう。そんな秀麗な虹でも、にじみに対する角度を変えてしまうと、虹を認識し、見ることができなくなってしまうのだ。このように、角度を変えたとある物が別の物に変わったりすることは、日常生活にもたくさんあるのだ。

下の図の場合はどうだろうか。昔懐かしい、レトロなゲームなどに出てきそうな形を五つ見ることができると、この図から、

何か別の物を発見する人もいるだろう。中心にある五つの物の間をよく見ると、何かの文字が浮かび上がってきただろう。まだ分からない場合は、絵を三等分してその上と下を隠してみると、「L・I・F・E」でライフという文字を読み取ることができるとだ。

このように中心に見る物を変えたと、その物の感じ方が変わってしまう。このようなことは、私たちも普段から体験している。少し周りを見渡してみよう。目に入った特別印象の強い物に目が奪われてしまうはずだ。そのとき見ている印象の強い物は、視界の中心に来ていて、その周りの物がただの背景、つまり、ドラマで言うところの脇役になってしまう。逆に、先ほどまで中心に見ていた物の近くにある物を中心に見ると、その中心に見た物が視界の中で主役になり、ステージの上に躍り出てくるのだ。

このように、物を見る角度や、中心に見る物を変えることによって、その物の他の姿を見つけ出すことができるかもしれない。

